

21世紀水倶楽部：

平成18年度通常総会を開催 ディスポーザー等のセミナーを実施へ

NPO法人21世紀水倶楽部は6月22日、東京・豊島区の下水道新技術推進機構内において、平成18年度通常総会を開催した。

21世紀水倶楽部は平成17年度、「分散型サニテーションと資源循環」を訳して「都市排水と病原性微生物」「都市域における集中豪雨防災システムの新たな展開」「ディスポーザー調査報告会」「下水道空間とFTTH」をそれぞれテーマとするシンポジウム等の開催をはじめ、三番瀬周辺見学会の開催、NPO法人下水文化研究会での講演、日本下水道事業団における講義、ホームページの拡充等活発な活動を行ったが、総会にあたり挨拶した大迫健一理事長もそれらの活動に触れ、「昨年は広範なテーマを取り上げ、その活動範囲も確実に広がってきた。会員数も増えてきた。今後、この倶楽部がますます大きく活躍できるようにしていきたい」などと語った。

総会では、平成18年度の事業計画として、下水中の微量物質やディスポーザーの設置基準、先端的ITをテーマとするセミナーの開催、ディスポーザーの普及活動、HPの充実、市民向け出前講座などを実施することが承認された。

なお、総会終了後には安藤茂副理事長による「地球温暖化問題」の特別講演が行われた。

同NPO法人の会員数は、6月現在で68名となっている。



大迫理事長

日本スナップロック協会：

第17回定例総会を開催 新工法の完成に意欲

日本スナップロック協会は6月21日、宮城県松島町のホテル松島大観荘において、第17回定例総会を開催した。

同協会は平成18年度、①NGJ工法（管きよとマンホール接続部の耐震化工法）の技術を完成し営



喜多島会長

業展開を図る、②小口径管を対象とした耐震化工法（MINIマグマ）の開発に着手、③農業用水を対象とした積極的営業展開を図るためのカタログ・技術積算資料の作成——等を事業計画としてあげた。

総会開会にあたり喜多島恒会長は「昨年度、スーパースナップロック工法が新潟県中越地震の災害復旧で管きよとマンホール継手部の修繕工法の一つとしての指定工法に採用されたことを機に問い合わせが増えている。また、超大口径（φ3,500）施工技術、馬蹄形施工技術等の開発に取り掛かっている。当工法は他の工法とは違い、管路の利用状況に合わせて施工できるという特徴を持っている。こうした我々でなければできない技術をますます世の中に発表し広めていきたい」と所信を述べた。

FFT工法協会：

第15回定時総会を開催 品質管理体制の確立へ

管更生FFT-S工法の普及に努めているFFT工法協会は6月21日、東京・港区の第一ホテル東京において、第15回定時総会を開催した。

大田祐之会長は挨拶の中で、新聞記事「下水道で見る社会の明暗」を紹介し、普段見えない下水道ではあるが、汚水から食生活の変化のみならず、麻薬の使用実態など“社会の暗い部分”までもが見通せるようになった——という内容を読み上げ、「もう少し勉強すれば、私どももこのような仕事ができるようになるのではないかと、事業拡大の芽を見つける視点で現場と向き合う必要性を示唆した。

17年度におけるFFT-S工法の施工実績は約35.3km、下水道展や下水道管更生技術施工展への出展、一体型取付管更生工法の建設技術審査証明取得等が報告された。18年度事業計画としては、デモ施工や研修会の実施、専門技術者の養成を図る等の普及活動の強化、『二層構造館の技術資料』の説明会開催、品質管理体制の確立、(独)農業工学研究所との共同研究、取付管更生技術改良のために技術開発準備金を使用することなどが審議され、すべて承認された。また、管渠更生工法技術協会から改



大田会長